

- 1 ひつじぐさ白にまどろむ日の胎児
- 2 銀髪を梳けば白魚のはやきこと
- 3 卵管をゆるりと降り稲光
- 4 口紅を食い散らかして白鳥(スワン)とは
- 5 ごうごうと犬が沈んでゆく花野
- 6 シナプスの髪のざわめく若葉風
- 7 満々と虚空の映えてルリタテハ
- 8 天涯の海をマリアの立ち泳ぎ
- 9 数学の指のだつらく海月かな
- 10 三日月の頬より砂のこぼれくる
- 11 瞑らざるホオジロザメの銀河濃し
- 12 塵一粒みつめていると蝶になる
- 13 髪留は廃れて夏至の喉(のみど)燃ゆ
- 14 サイネリア影は地下水まで届く
- 15 人攫うときヤマユリの万華鏡
- 16 さやさやと臍の国より秋の風
- 17 おっぱいの円も楕円もはなぐもり
- 18 産土の塩しらしらと老けてゆく
- 19 夫にふと鱗あることも秋の虹
- 20 彼の世へと夫眠りいる砂糖壺
- 21 やわらかき人の亡(ほろ)びを桃の水脈(みお)
- 22 東人や桃のゆりかごにて逝かん
- 23 天児(あまがっ)をひさぐか李商人は
- 24 流木のしずかしずかにひかる水
- 25 沙羅の樹の手が縦横に目を抉る
- 26 春月へるいるい瑠璃金しゃこ瑪瑙
- 27 ほんのりと水の夕べの白木蓮
- 28 愛妾は金星ほどのど飴喰
- 29 河童忌の湖上ずらりと壺の群
- 30 きりぎしに立つ父母やしろうるり
- 31 じつと手を見たり銀河を掻きまわす
- 32 石退けて寂しき蟻の巢の我が背
- 33 ふらここやいつもまひるなおとこのこ
- 34 逆さ水とよみはじめる春の山
- 35 神かくし象の天空晚餐会
- 36 脳(なずき)いま鳥の回路や後生楽
- 37 雪割草となり糞が寝ています
- 38 マフラーの少しつかれて象の鼻
- 39 青嵐地球の産毛逆立てて
- 40 億年の春を宙吊る翡翠玉
- 41 一對の卍ほぐる鷹の空
- 42 花ミモザ窓は一枚の忘却
- 43 ひらひらと月をあざむく五線譜か
- 44 水飴の気泡や銀河鉄道発つ
- 45 鳥おんな虹生む穴が閉じるとは
- 46 けだものの光に濡れて少女忌よ
- 47 犬眠りいる秋分と醜聞と
- 48 みずうみを吹き消し尾鰭ひらりひらり
- 49 地の果の鼓動は暮れて火祭よ
- 50 心臓の狂れはじめたる夜の柿

- 51 床下の吹雪の国へ塩の華
- 52 万劫や虹のくびれに魚棲みて
- 53 風花や陽は花嫁のごとく墜つ
- 54 夜を幽か隆起している枕木よ
- 55 烏賊の骨咲き狂いたる夫の骨
- 56 春思あゝ圧倒的にDの海
- 57 眼帯の孵化うようよと聖学院
- 58 あおおと宙(そら)の崩落花すすき
- 59 月面の雪さらさらと女媧の門
- 60 ソプラノの空や少女の麻醉薬
- 61 蠟涙の百億の星咳けり
- 62 学校の殻は巨大に末枯野
- 63 錠剤の雪ふりつもる女部屋
- 64 ドーナツの穴やわらかに秋晴るる
- 65 青空の酸っぱさをいま蔦紅葉
- 66 鉄の棒をとおせば月は割れずに哭く
- 67 くろがねの海のほとりの秋の蝶
- 68 虹の根にそつと卵を産み去りし
- 69 志功絵の赤より赤き大岩木
- 70 背いては南風(みなみ)を跨ぐ少女(おとめ)らよ
- 71 虹の死を一心に食む鴉かな
- 72 雪山のうすむらさきに星の航
- 73 脳髓を白馬駆け抜けたる海ぞ
- 74 Y軸の男が月を彫金す
- 75 おおいなる外反母趾を冬將軍
- 76 少女らを吐き出している秋思かな
- 77 白馬(あおうま)の業火の青田ひた搔くや
- 78 勾玉の胎児は廻る真夜の雷
- 79 陰毛のやわき弾みの弥生かな
- 80 冬暁や月を撃ちたる鳥の首
- 81 抱きしめて疑問符となる恋猫よ
- 82 ひかがみの砂漠と化してゆく月夜
- 83 波は万の白き指もて大南風(おおみなみ)
- 84 黄金の怒号に脳(なずき)埋れゆく
- 85 乳白の手首がふれて稲穂の火
- 86 薄氷に幼き女陰(ほと)の青さかな
- 87 Appetite (アピタイト)四角い春の空がある
- 88 かざはなす原子模型のつらなりを
- 89 ヒヤシンス風化してゆく喉仏
- 90 螺旋状につづく平和に鳥啼けり
- 91 貌なき魚 山吹の走り去る
- 92 眼帯の街を飛翔の夕虹よ
- 93 恐竜の大あくびして夕永し
- 94 無色無音の川に佇む九月尽
- 95 手のひらに死魚万劫の水となる
- 96 火の遺跡よりほろほると粉雪が
- 97 微笑いま喉を切り裂く無尽光
- 98 しろじろと橘の火を残し逝く
- 99 殷殷と五百羅漢の露の叢
- 100 古代碑の紫苑ゆらめく無神論